

令和7年度 **国** **語** (50分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- 2 この問題冊子は27ページである。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
 - ・①氏名欄
氏名を記入すること。
 - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 4 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答番号	解 答 欄				
10	①	②	③	④	⑤

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

問題は、次のページから始まります。

国語

解答番号

1

25

1

次の文章を読んで、問1～問6に答えよ。

四月二十四日(土)

(注1) 鈴木純さんの昨日のオンラインレクチャーに影響を受け、鹿谷庵(注2)で子どもたちと、ドクダミの根をなるべく切らないように掘り出すワークショップを開催。地上では分かれているように見えるドクダミも、地下では意外と遠くまで繋がっている。虫を見ついたり、水で遊んだり、脱線をしながらか一時間ほどかけ、何株も繋がったドクダミの根をみんなで掘り出す。なにを生み出したわけでもないが、達成感がある。

(注3) テイモシー・モートンは今年に入って、人類学者で作家のドミニク・ボイヤーとの共著で『Hyposubjects』という本を出した。これは、ハイパーオブジェクトの時代に、どのような「主体(subject)」として生きていくかを模索するかなり実験的な著作である。

本を書くという行為そのものを編み直していかうとする二人は、一人称を共有するという遊び心に溢れたスタイルでこの本を書き進めていく。二人の著者が「私たちは」と名乗る代わりに、「私は」と同じ一人称を分かち合うのだ。このため、「私は完全に同意だ。私はまったく同意できない」といったような矛盾した文も平気で書いてしまう。首尾イツカン(ア)した一人の「強い主体」としての著者という観念を、文体から打ち破っていく試みである。

表題にある「hyposubject」は、「hypersubject」に対置される概念だ。ハイパーオブジェクトの時代に、それでもなお意味の主宰者であり続けようとする「強い主体」を、著者は「hypersubject」と呼ぶ。これに対し、「hyposubject」とは、全体を俯瞰できない自己の弱さと不完全さを受け入れて生きていく「弱い主体」だ。

「hyper」が「超越」を意味する言葉なのに対して、「hypo」は、「下、下方、低い」を意味する。ハイパーサブジェクトは命令し、支配し、超越的な立場から全体を見下ろそうとするが、そんな彼らの時代は、ハイパーオブジェクトの顕在化とともに終焉を迎えていく。どれほど命令し、支配し、超越しようとしてもなお、ハイパーオブジェクトは視界の外から侵入してきて、世界を完結させようとするあらゆる試みが無残にも引き裂いていくからだ。

とすれば、ハイパーオブジェクトの時代の主体は、むしろ自己を徹底的に弱くしていくしかない。同書でモーションとプレイヤーはこの可能性を追求する。ここで、「遊び(play)」が、重要なキーワードになる。

「遊び」とは既知の意味に回帰することではなく、まだ見ぬ意味を手探りしながら、未知の現実と付き合ってみることだ。それは、みずから意味の主宰者であり続けようとする強さを捨て、まだ意味のない空間に投げ出された主体として弱さを引き受けることである。意味の全貌を見晴らせないなかで、それでも現実と付き合い続けようとする行為は、自然と「遊び」のモードに近づいていく。

それはいつも子どもたちが教えてくれることもある。

指をしゃぶり、椅子の下に潜り、スプーンを投げ、食器を叩く。まだ意味がわからない対象を、舐め、啜え、叩き、投げ、転がしながら、目の前の現実をいまままでよりよくわかろうとする幼な子の姿は、モーションが言う「遊び心(playfulness)」の生きたモデルだ。

既存の意味が安定していた世界では、遊びはあくまで真面目な仕事からの逸脱だった。しかしこれまで意味として信じられてきた世界が崩れていくとき、^B既知の意味に回帰しようとする生真面目さのほうか、かえって命取りになる。

大人と子どもが同じ場を共有するとき、しばしばその場を支配するのは子どもたちだ。大人は、自分こそが意味の主導権を握っているつもりである。椅子は座るもので、テーブルは食事をするためのものだ。意味をイチボウ⁽¹⁾できる「ハイパーサブジェクト」として、大人は子どもたちの前に君臨している。

ところが子どもたちはその同じ場において、すべてを思わぬ仕方遊び始める。椅子にのほり、コップを落とし、食事をするはずの場で追いかけて始める。子どもたちは大人が構築した世界に対抗するのでも、自分たちの「正しさ」を振りかざすのでもなく、ただ大人と同じ世界を、その与えられた配置のまま、それを構成するあらゆる要素を別の意味で使い始める。子どもたちの果てしない遊び心に、大人は翻弄されてしまう。強い主体であるはずの大人が、まだ意味がないことを受け入れる子どもたちの主体の弱さに、すっかり振り回されてしまうのである。

危機においてますます意味の主導権を握り続けようとするハイパーサブジェクトの支配から自由になるためには、単純な抵抗や正義の主張では不十分だ。意味の主宰者であろうとする大人たちを翻弄する子どもたちの遊び心は、これからの時代を生きるための大きなヒントだ。

モーションは、子どもたちどころか、あらゆるモノが、よく見れば、すでに遊び心を体現していると語る。

モノがモノであるとは、^{プレイフル}遊戯的であるということなのだと思う。だから、そのように生きることのほうが「精緻(accurate)」なのだ。

現代の物理学は、意識も生命もないとされてきた「モノ」の世界が、いかに創造的で生産的かを明らかにしてきた。現代の宇宙物理学によれば、宇宙はかつて細胞より小さな極小の時空から、おびただし数の銀河を含む現在の姿にまで膨らみ続けてきた。量子力学によると、物質は最も小さなスケールで、位置と運動量が同時に決まらないような根源的な曖昧さとともに、落ち着きなく揺らぎ続けている。意識や生命がなくてもモノは、ただその場でじっとしているだけの無力な存在ではなかった。

モノはそれ自体がすでに驚くべきほど創造的で、遊戯的なのではないか。とすれば、遊戯的であることは、現実から一時的に脱線することではなく、むしろ遊戯的であることこそが現実的なのではないか。既知の意味に固着する生真面目さよりも、あらゆる可能性を試す遊び心のほうが「精緻」とモートンが言うのは、それが意識や生命すらないとされる、あらゆるモノたちに共通する根本的なあり方だからだ。

「精緻yo(accuracy)」は、ハイパーオブジェクトの時代の重要なキーワードになる。動かぬ一つの「正しさ」を決めてしまうよりも、これまでより少しでも「精緻」な認識を求めて動き続ける。これは、人類の大先輩である植物たちが、これまでいつも実践してきたことでもある。

イタリアの植物学者ステファノ・マンクーズは著書『植物は〈未来〉を知っている』のなかで、「緊急事態」に直面したときの動物と植物の違いについて、とても面白い指摘をしている。C、動物は緊急事態に直面したとき、いつも同じ対処をしてきたというのだ。それは、「逃げる」という方法である。問題が起きたら、その場からいなくなる。動物はこのために、迅速に動ける身体と神経系を発達させてきた。

これに対して植物は、環境から逃げずに、その場にながら問題を解く。このため、「並外れて優れた感覚」を磨いてきた。その場にいることを選んだ生き物にとって、その場でなにが起きているかを精緻に把握することこそが、死活問題だからである。

パンデミックや地球規模の環境の変動に対して、僕たちはすぐに逃げることはできない。これらは、「どこか別のところへ行く」という仕方では回避できない問題なのだ。だからこそ植物に学ばなければならない。ここでないどこかに行くためではなく、すでにいるこの場所をいままでより精緻に知るためにこそ、資源とエネルギーを大胆に投下していくのだ。

(森田真生『僕たちはどう生きるか めぐる季節と「再生」の物語』による。)

(注1) 鈴木純さん——植物観察家。植物生態写真家。

(注2) 鹿谷庵——筆者が京都府に開いた研究の場。

(注3) テイモシー・モートン——哲学者。生態学者。

(注4) ハイパーオブジェクトの時代——気候変動や新型コロナウイルスなどのように、時間的にも空間的にも人間のスケールをはみ出すものが

顕在化する時代。

問1 傍線部(ア)、(イ)に当たる漢字と同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は 1・2。

(ア) イツカン

1

- ① カンペキに仕上げる。
- ② バスが市内をジュンカンする。
- ③ カンマツの参考文献を確認する。
- ④ 初志をカンテツする。
- ⑤ ソウカン号が発売される。

(イ) イチボウ

2

- ① 彼はネボウして遅刻した。
- ② 平和をカツボウする。
- ③ ボウスイ加工の上着を買う。
- ④ 出来事の一切をボウキヤクする。
- ⑤ 地道な努力にダツボウする。

問2 傍線部A この可能性 の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 3。

- ① ハイパーオブジェクトの時代のなかで、人類学者たちが超越的なものを捉えることができる見込みがあること。
- ② 人間のスケールを大きく超えるものが存在するなかで、それに対抗していくことができる見込みがあること。
- ③ 著者は一人称で書くという約束のなかで、二人の著者が一人称を同時に使うことができる見込みがあること。
- ④ 経験しなかったような状況に遭遇するなかで、強い「主体(subject)」でいることができる見込みがあること。
- ⑤ 全貌を見渡せない現実のなかで、まだ意味が確定していないことを受容することができる見込みがあること。

問3 傍線部B 既知の意味に回帰しようとする生真面目さ の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

4

- ① 自分の積み上げてきた経験を抛り所に解決策を求めようとする、融通のきかない態度のこと。
- ② 世界を構成する条件を改めて考え直して現実を受け入れていこうとする、誠実な態度のこと。
- ③ 子どもの世界に再び立ちかえって全く新しい遊びを作り出そうとする、創造的な態度のこと。
- ④ 日常的な仕事からの逸脱を繰り返して本来の意味を見つけ出そうとする、実直な態度のこと。
- ⑤ 大人としての主導権を取り戻し子どもたちを束縛しようとする、柔軟性に欠ける態度のこと。

問4 空欄 C に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

5

- ① すると
- ② しかし
- ③ すなわち
- ④ ただし
- ⑤ そうして

問5 岡田さんと三山さんは、本文を読んだ後、冒頭の の内容について意見交換をした。次の【意見交換の一部】を読んで、空欄 に入る語句として最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 6。

【意見交換の一部】

岡田さん 一見関係なさそうに見えるけど、冒頭の日記の部分と本文の内容とは関係がありそうだよ。

三山さん 日記では、作者が子どもたちとドクダミの根を掘り出す話を書いてあったね。

岡田さん これは本文の「遊戯的」につながるんじゃないかな。

三山さん 「遊戯的」は、本文中によく出てくる言葉だよな。

岡田さん ドクダミの根をなるべく切らずに掘り出すことがワークショップの目的だけど、子どもたちは関係のないこともしているようだね。

三山さん そうか。日記に出てくる子どもたちは、本文で述べられている 存在なんだ。

岡田さん 日記は本文の内容を具体化して示していたんだね。

三山さん それなら日記に出てくるドクダミは、本文で述べられている「その場にいることを選んだ生き物」を具体化しているということかな。

岡田さん なるほど。そういうことだったんだね。

三山さん うん。普段見落としてしまいそうな、子どもたちの無邪気なふるまいや身近な生物の営みから私たちが教えられることがあるんだね。

- ① あらゆる可能性を試す
- ② その場にいることを選んだ
- ③ 全体を見下ろそうとする
- ④ 意味の主導権を握っている
- ⑤ 落ち着きなく揺らぎ続ける

問6 本文における筆者の主張を踏まえた具体例として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 7。

- ① 森林減少による土砂災害への対策として、今まで安全だと考えられていた土地を含めて地盤調査の対象を吟味する。
- ② プラスチックごみが要因となっている海洋汚染問題への対策の一つとして、自然に還る素材を使った製品を開発する。
- ③ 地球温暖化を抑制する脱炭素社会実現のために、再生可能エネルギーを活用した新しい電力の供給を模索する。
- ④ 大雨が引き起こす河川の氾濫による浸水被害をなくすために、過去最高水位に対応した高さで堤防を整備する。
- ⑤ 大気汚染の要因の一つである排気ガスを抑制するために、化石燃料を用いない輸送手段の利用を検討する。

2

森川さんのグループは、総合的な探究の時間に「食品ロス問題」について調べ、「自分たちでもできる取組がある」ということを、クラスの皆にも知ってもらうために、発表をする準備を進めている。クラスでの発表の際に用いる【発表原稿】、発表のための【話し合い】を読んで、問1～問6に答えよ。

【発表原稿】

皆さん、こんにちは。今日は「食品ロス」についてお話しします。

〔ア〕

「食品ロス」とは、まだ食べられるのに廃棄される食品のことを指します。日本では年間約472万トン、国民一人当たり毎日約103グラムの食品が捨てられています。食品ロスの主な原因は、家庭での食品の買い過ぎや食べ残し、そして事業者による季節商品の作り過ぎや調理ミス、規格外商品の返品などです。また、賞味期限切れ食品や余剰在庫品の廃棄も大きな要因です。

〔イ〕

食品ロスを減らすための対策には、次のようなものもあります。例えば、飲食店で食事をするとき、どうしても食べきれない場合は持ち帰ることや、買い物の際に、食べきれないほどの食材を買わないといったことです。

〔ウ〕

私たちの住む山西市では、食品ロス対策と地域活性化の両方に取り組んでおり、本来廃棄処分となってしまう規格外の野菜を活用した、「つるむらさきパスタ」などの新しいメニューを開発しています。地産地消というかたちで地域活性化にもつながっているそうです。また、賞味期限切れ食品や余剰在庫品を無料で提供する、フードドライブの取組も、市が中心となって行っています。

〔エ〕

他国でも、さまざまな方法で、食品ロスへの対策がなされています。例えば、外食時に出た食べ残しを持ち帰る「ドギーバッグ」が普及している地域があります。また、給食時に苦手な食品を「シェアテーブル」と呼ばれるテーブルに集め、他の生徒が自由に取れる仕組みもあります。他にも、余った食材をおすそ分けするアプリの開発が進められている地域もあるそうです。

〔オ〕

以上のように、私たち一人一人が食品ロスを減らそうという意識を持ち、行動することで、本来食べることができず食品が廃棄されることを減らし、持続可能な社会を実現することができます。ご清聴ありがとうございました。

【話し合】

森川さん① 今度の発表の原稿について、改善できるところがあれば意見を出していこう。

稲葉さん① 原稿は、よくまとまっているから、大丈夫だと思うよ。まずは食品ロスについて知ってもらうことが大切だからね。

矢部さん① そうかなあ。これだと、聞いた人たちは、A。

池内さん① そうだね。私たちの発表の目的は、まず食品ロスについてみんなに知ってもらったうえで、自分たちにもできる取組を紹介することだよ。明日からでも私たちにできることがあるということを知ってほしいよね。

矢部さん② 文化祭の時も廃棄食材が多く出て問題になっていたよね。生徒会を中心に、数年前から文化祭での食品廃棄量を調べて、無駄を減らすように呼びかけているけど、なかなか効果が上がらないらしいんだ。食材を使いきるとか、買い物のときに買い過ぎないとか、食品ロスは私たちにとっても身近なことであると理解し、自分たちの意識や行動を変えるきっかけになる発表にしないとね。

森川さん② そのような発表にするためには、どのような内容を強調して伝えればいいかな。

矢部さん③ 原稿の中では、他国の「シェアテーブル」という取組がいいと思ったよ。うちの食堂にも、残してしまいそうな食品をみんなに食べてもらえる場所があったらいいとは思ったんだけどね。自分だけでやるには、Bかな。

池内さん② うーん、他国の例か……。そう言えば、以前部活動のトレーニングで、他国のやり方をそのまま取り入れたけれど、うまくいかなかったことがあったよ。

稲葉さん② それなら私たちの住んでいる山西市の取組を強調したほうが印象に残るよね。地元の人たちに話をうかがったところ、つるむらさきパスタは味が良く、健康的だと評判だったよ。山西市がこういう取組をしていることを多くの高校生が知ったら、食品ロスのことがより身近に感じられるようになると思うよ。

森川さん③ では、山西市役所のつるむらさきパスタの例を強調して説明することにしよう。

稲葉さん③ じゃあ、全体の構成はどうなるかな。

池内さん③ 食品ロスについて、他国の現状を伝えながら、より身近な話題に焦点化していくように、発表の構成を工夫しよう。最後は、みんなが自分ごととして行動できるような内容で締めくくるといいね。

矢部さん④ それに、スライド等で説明する具体例に関連する資料やグラフを提示しながら説明をすると説得力が増すと思うよ。

森川さん④ そうだね。聞いている人がわかりやすいように、発表原稿を修正してみよう。

問1 空欄

A

に入る語句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

8

- ① 他国の取組について、具体的に想像することができないよ
- ② 自分でできることについて、深く考えるきっかけにはならないよ
- ③ 日本で解決するべき課題について、的確には伝わらないよ
- ④ 食品ロスについて、根本的な問題が何かを知ることができないよ
- ⑤ 学校行事での廃棄食品について、真剣には考えないよ

問2 空欄

B

には、「自分の能力が及ばず、負担が大きい」という意味の慣用句が入る。その慣用句として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

9

- ① 役不足
- ② 荷が重い
- ③ 弁が立つ
- ④ 舌を巻く
- ⑤ 二の句が継げない

問3 池内さん②の発言についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 自分の失敗への反省から、他国の例を発表で強調することの注意点を述べている。
- ② 矢部さんと同様に興味は示しているが、他国の例を取り上げることは慎重になっている。
- ③ 矢部さんの意見に賛成をして、他国の例の示し方について提案している。
- ④ 矢部さんとは異なる観点から、他国の例を発表で強調することに賛成している。
- ⑤ 自分の経験を基に、他国の例を発表の中心にすることに懸念を示している。

問4 傍線部C うかがった とあるが、同じ種類の敬語を用いているものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 11。

- ① 先生がいらっしゃる。
- ② 本を読みます。
- ③ お手紙を拝見する。
- ④ 皆さんもご存じのとおりです。
- ⑤ 召し上がってください。

問5 矢部さん④の発言を踏まえた発表の工夫として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 12。

- ① 効果的な対策について知ってもらうため、世界のさまざまな国の現状を示した「各国の食材廃棄の割合」という資料を示す。
- ② 規格外商品が廃棄されている現状を伝えるため、つるむらさきパスタの売り上げを示した「つるむらさきパスタ販売状況」という資料を示す。
- ③ 市役所の取組を理解してもらうため、山西市のつるむらさきの直近五年間の生産量を示した「つるむらさきの生産量の推移」という資料を示す。
- ④ 文化祭の食材の買い過ぎを伝えるため、我が校の文化祭での廃棄食材の量を示した「文化祭の食材廃棄量の推移」という資料を示す。
- ⑤ 行動を変える意識付けをするため、国の対策とそれによる効果を示した「食品ロス量の推移と削減目標」という資料を示す。

問6 【話し合い】で出た意見を踏まえて、【発表原稿】の「ア」～「オ」の順序を見直した場合、その構成として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 「ア」↓「ウ」↓「イ」↓「エ」↓「オ」
- ② 「ア」↓「ウ」↓「エ」↓「イ」↓「オ」
- ③ 「ア」↓「エ」↓「ウ」↓「イ」↓「オ」
- ④ 「イ」↓「ア」↓「ウ」↓「エ」↓「オ」
- ⑤ 「イ」↓「エ」↓「ア」↓「ウ」↓「オ」

3

次の文章を読んで、問1～問5に答えよ。

明鹿高校のバレー部に所属する僕(景)と北村は、中学校からのチームメイトであった。練習試合で僕が怪我をしたことをきっかけに、控え選手であった北村は、試合に出場するようになった。

日曜は一日練習だった。十六時くらいにチーム練習が終わると、僕はこっそり体育館を出た。コートの外でストレッチをするのも、空いたコートで自主練するのも、どっちも自分の居場所じゃないような気がしたからだった。

冷えた空気に身体を縮こませながら、部室棟に繋がる渡り廊下を歩く。練習中に体育館を抜け出してその辺をうろちよろしていたのはほんの少し前のことだが、こんなに寒くはなかった。

寒いけど、でも体育館の中よりは息がしやすかった。

部室棟はひっそりしていた。男子バレー部の部室に入り、なんとなく奥のベンチに腰を下ろす。なにをしにきたんだっけ。なにしにきたわけでもない、一人になりたかったんだ、とすぐに思い当たる。

(注1) (注2)

午後の練習は、実践的なメニューが主だった。北村は遊晴や塩野と、守備範囲やブロックの位置を確認していた。北村がなるべくプレイに関わらないことがチームの最善。そう言われていた稲村東戦のときは、まるで違った。そして僕はその姿を反対側のコートから、相手チーム役として眺めていた。こっち側にいるのは、僕以外全員一年生。態度には出さないけど、でも気を遣われているのははっきりわかる。怪我の影響がまだ長引いている先輩、もしくは怪我をきっかけに調子を崩した先輩。そういう、ちょっと腫れ物に触るような感じで見られていた。

突然、部室の引き戸がガラッと開いた。誰か来たと気づいた瞬間、バツが悪いような、恥ずかしいような心持ちがして、思わず腰を少しだけ浮かした。

「うわっ、びっくりした」

戸口に立つ北村は、扉に手をかけたまま声を上げる。

「……なにしてるの、こんなところで」

「いや。なんか取りに来たの？」

僕は北村の顔を見ないようにしながら、またベンチに座った。ゴムチューブを探して、と北村は答えて、壁際のラックを漁り始める。肩の筋肉を

鍛えたりするときに負荷を加える道具で、いま北村が顔を突っ込んでいる場所ではなくその上の段にあると僕はわかってはいたが、あえて口にしなかった。怪我した日の夕方、あのときも部屋で僕は北村と二人きりになった。遠い昔のように思える。一カ月以上前だから、実際遠い昔だ。(注3)

北村が、あつた、とラックに突っ込んでいた手を引き抜いたとき、僕の脳裏には「バレー部に入ってて本当よかった」というこの間の柿間かきまさんの言葉が浮かんでいた。

B 「……北村はなんで、高校でもバレーを続けたの？」

北村は怪訝けげんそうに振り返る。

「なに、いまさら」

「気になった。いまさら」

「去年の合宿でも聞いてきたよね、それ」

去年のゴールデンウィークの合宿で、ごうんごうんと震える洗濯乾燥機の前で、たしかに僕は同じことを訊きいた。でも北村の答えは覚えていなかった。

「あのとき、お前ちゃんと答えなかったでしょ」

「いや答えたよ、景が覚えてないだけ」

「なんて言ってたっけ」

「バレーやりたかったから」

僕は顔を上げて北村を見て、すぐその手の中のゴムチューブに視線を逸そらした。

北村は口を閉ざしたまま笑った。僕と自分自身、両方向に放たれた嘲笑たわぶに思えた。

「俺、変なこと言っていないよな。俺がバレーしたいって言うの、そんなに意外かな」

「そりゃ意外でしょ」

気を遣うつもりはなかったから、僕は即答した。「中学のときは、試合なんかまったく出でなかったんだから」

北村はしばらく黙して、右手の指を親指から一本ずつ、左の手で揉もんだ。今日の練習中に負傷したのか、小指が少し変色し、腫れているように見えた。

その小指に触れてから、北村は口を開く。

「中学の最後の試合に、俺が出たの覚えてない？」

中三の夏の記憶を辿たどった。かなり遠くに霞かすんでいたが、ひどく暑い日だったこと、僅差で負けたこと、それと中学三年間で一番のスパイクが打てた

ことは覚えていた。打球を弾いたレシーバーの顔も思い出せるような気がする。でも北村がコートにいたことは、言われても思い出せなかった。そりゃあ景は覚えてないか、と北村は笑った。

「出たんだよ、試合に。ピンチサーバーで。ほんと些細なプレイだったけど。俺がサーブ打ったあと、相手レフトからスパイクが打たれた。ブロックに当たって跳ねて、俺の少し右の方に飛んできた。俺は走って、腕を伸ばして、拾った。ボールは綺麗にセッターに返った。セッターだから丸ちゃんだよ。いまなにしてんだろ、あいつ。高校どこだったっけ？」

「……それで？」

「ああ、それで丸ちゃんは景にトスを上げた。景はそれを決めた」

北村は、淡々とした口調で続ける。

「俺のレシーブが繋がって、得点になって。景からしたら、それがどうしたって感じだろうけど、なんて言うんだろう、自分がチームに参加している感じがすごくして、気持ちよかった。久しぶりにバレーを楽しいと思った。その瞬間まで、中学でバレーなんかやめてやるつもりだったけど、あの一歩があったから、高校でもバレーやろっかなって気になれた」

ただの一点。些細なプレイ。セットポイントでも、逆転の一手でも、流れを引き寄せた得点でもなく、そもそも自分で決めたわけでもない。でもそれだけで景色が一変する感覚は、僕も知っていた。いや正確に言えば、知っていたはずだった。

「だから入りたてのころは結構モチベーションもあつたんだよ。最初の合宿で景が試合に出たじゃん？ あのととき、中学から知ってる景が高校でも通用してるの見て、嬉しかった。俺もやれるのかもって思った。まあ全然だったわけだけ」

またあの合宿の話かよと思ったが、同時に、コインランドリーで話したとき北村がスプライトを飲んでいたことを思い出す。なにかいいことがあった特別な日には、バランスを取るために苦手な炭酸を飲む、という北村の変な癖だ。

「最近景の代わりに試合に出て、それで何回かまた楽しいって思える瞬間があった。そのおかげで、俺はバレーが好きなんだって、ちゃんと思ひ出した」

バレーが好き。バレーしたかった。景と一緒に。北村の発した言葉は奔流となって頭の中をかき乱し、次第にこの部室みたいに雑然としてきて、わけがわからなくなってくる。

「景」

北村が躊躇いがちに放った一言で我に返った。北村は扉の前で振り向く。

「……あんまり俺のこと、舐めないでほしい」

透明な手で平手打ちを受けたように感じた。全身の筋肉が一度に硬直する。透明な手はそのまま僕の肩を掴んで、押さえつけてきて、僕はそのせいで身じろぎ一つできなかった。

北村は部室を出ていく。夕闇に沈んだ近くの木立で、小鳥が叫ぶように鳴いた。

(坪田佑也『八秒で跳べ』による。)

(注1) 遊晴 —— バレーボール部の二年生。

(注2) 塩野 —— バレーボール部の二年生。部長。

(注3) 柿間 —— バレーボール部の三年生。

問1 傍線部A 一人になりたかったんだ の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は 14 。

- ① 試合に出られない自分に価値を見いだせず、進退を含めて自分の気持ちと向き合おうと考えたから。
- ② けがをして不機嫌な自分を皆が厄介者のように扱い、体育館には居場所がないと感じたから。
- ③ 自分の機嫌を損ねないように慎重に接する一年生の態度に、窮屈な息苦しさを感じたから。
- ④ けがをした自分に皆が気をつかうため、体育館にいても練習の邪魔になると感じたから。
- ⑤ 寒い体育館での長時間の練習はけがを悪化させるため、部室で体を温めようと考えたから。

問2 傍線部B 北村は怪訝そうに振り返る。とあるが、このときの「北村」の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 15。

- ① けがをした「僕」からバレーに対する思いについて質問をされたことで、「僕」の状況に同情をしている。
- ② 練習中に部室にいた「僕」からその場を取り繕うように質問をされたことで、「僕」への懐疑心を抱いている。
- ③ 体育館から急に姿を消した「僕」から思わせぶりの質問をされたことで、「僕」の様子に違和感を感じている。
- ④ レギュラーである「僕」から控え選手を見下すような質問をされたことで、「僕」の無神経さに閉口している。
- ⑤ 中学校から同じ部活に所属する「僕」から昨年と同じ質問をされたことで、「僕」の真意を凶りかねている。

問3 傍線部C 淡々とした とあるが、本文における意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① はっきりした
- ② しつくりした
- ③ とげとげした
- ④ あっさりした
- ⑤ こまごました

問4 傍線部D わけがわからなくなってくる。とあるが、このときの「僕」の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は 17。

- ① 北村の言葉をその通りだと思い、自分のバレーに対する甘えた考え方を反省しようとしている。
- ② 北村の言葉を素直に受け入れられず、自分のバレーに対する気持ちが整理できなくなっている。
- ③ 北村の言葉の意味は理解できるものの、北村の態度には納得できないことに混乱している。
- ④ 北村の言葉に他意はないと思いつつも、北村を信じることができず自分と葛藤している。
- ⑤ 北村の言葉には困惑しつつも、自分のバレーへの取り組み方に間違いはないと思おうとしている。

問5 傍線部E 僕はそのせいで身じろぎ一つできなかった。とあるが、このときの「僕」の様子を説明したものとして最も適当なものを、次の①

～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 18。

- ① 今まで顧みることなかった北村からの反撃に衝撃を受けるとともに、北村のバレーに対する情熱を知って、自分のバレーへの向き合い方を考え直さざるを得ないという状況に追い込まれている。
- ② バレーに対する自分の慢心を指摘されたことに衝撃を受け、北村がひたむきな努力を重ねていることを知って、自分も努力をしなければ北村にレギュラーの座を奪われるという状況に追い込まれている。
- ③ 北村が自分を尊敬していたという事実には衝撃を受けるとともに、北村のバレーが好きだという純粋な気持ちを知って、北村を見下していた自分の態度を反省せざるを得ない状況に追い込まれている。
- ④ 気づかないうちに自分に先んじていた北村に衝撃を受けるとともに、北村の自分に対する強烈な敵対心を知って、レギュラーの座を争う覚悟を決めなければならぬ状況に追い込まれている。
- ⑤ 北村が白く透き通るような手を振り下ろしてきたことに衝撃を受けるとともに、北村の心の奥底にあった怒りを知って、自分の仲間に対する態度を改めなければならぬ状況に追い込まれている。

4

北高等学校の佐藤さんは、言語文化の授業で紀行文を読み、自分でも『海道記』について調べることにした。次の【文章】を読んで、問1～問5に答えよ。

【文章】

江尻(注1)の浦を過ぐれば、青苔石(注1)に生ひ、黒布磯(注2)による。南は沖の海森々(注2)と波をわかで、孤帆天(注2)にとび、北は茂松鬱々と枝を垂れて、一道つらをなす。

漁夫が網を引く、身を助けんとして身を勞れしめ、游魚(注3)の釣をのむ、命を惜しみて命を滅ぼす。人、幾ばくの

B

をか求むるや。世を渡る思、命をたばふ志、彼も此も共に同じ。是のみかは、山にあせかく樵夫(注4)は、北風を負ひて晩に帰る、野にあしなへぐ
商客は、白露を払ひて暁に出づ。面々の業はまちまちなりと云へども、各々の苦は、これ皆渡世の一事なり。

人ごとに越る心はかはれども世をすぐる道はひとつなりけり

この浦を遥かに見わたして行けば、海松(注5)は浪の上に根を離れたる草、海月(注5)は潮の上に水に移る影、ともにこれ浮生を論じて人をいましめたり。

波の上にただよふ海の月も又うかれ行くとぞ我をみるらん

清見(注6)が関を見れば、西南は、天と海と高低一つに眼を迷はし、北東は、山と磯と嶮難(注6)同じく足をつまづく。磐の下には浪の花、風に開き春の定めな

り、岸のうへには松の色、翠(注6)を含みて秋をおそれず。浮天の浪は雲を汀(注6)にて、月のみ舟、夜出でて漕ぎ、沈陸の磯は磐を路にて、風の便脚、朝に過ぐ。名を得たる所、必ずしも興をえず、耳に耽る処、必ずしも目に耽らず。耳目の感二つながら従したるはこの浦にあり。波に洗ひてぬれぬれ行けば、濁る心も今ここに澄めり。宜なるかな、此処を清見と名付けたる。関屋に跡をとへば、松風空しく答ふ。岸脚に苔を尋ねれば、槿花(注6)変じて石あり。関屋の辺に布たたみと云ふ処あり。昔、関守の布をとりおきたるが、積りて石に成りたると云へり。

吹きよせよ清見浦風わすれ貝ひろふなごりの名にしおはめや

X
語らばや今日みるばかり清見潟おほえし袖にかかる涙は

(注1) 江尻の浦——駿河国の宿駅「江尻」の南方の海岸。

(注2) 孤帆——一そうの舟。

(注3) 游魚——「游」は「遊」に同じ。水中を泳いでいる魚。

(注4) 樵夫——きこり。

(注5) 海松——海松布^{みるめ}。海中の岩に生える海藻。

(注6) 清見が関——駿河国の歌枕。古く関所があった。

(『海道記』による。)

問1 空欄

A

B

に入る語の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

19

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| A | A | A | A | A |
| 利 | 楽 | 魚 | 命 | 罪 |
| B | B | B | B | B |
| 餌 | 苦 | 放 | 生 | 業 |

問2

傍線部C

ともにこれ浮生を論じて人をいましめたり。

の説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

20

- ① 海松と海月は、行くあてもなく海を漂うその姿によって、頼りない人生のはかなさを人に教え諭しているようだということ。
- ② 海松と海月は、地に足がつかないことから、一か所に落ち着いて暮らすことの難しさを人に教え諭しているようだということ。
- ③ 海松と海月は、波に流されて移動していることから、生きる指針を持たない人間の浅はかさを教え諭しているようだということ。
- ④ 海松と月影は、波間に見え隠れするその姿によって、栄えている者もいつかは滅びることを人に教え諭しているようだということ。
- ⑤ 海松と月影は、ただそこに存在していることから、生きる理由を考える人間の愚かさを教え諭しているようだということ。

問3

佐藤さんは、『海道記』の解釈について書かれた【資料】を参考にして、さらに深く【文章】について考えることにした。【資料】を読んで、後の(1)、(2)に答えよ。ただし、【資料】中の「点線の部分」とは【文章】中の点線の部分を指す。

【資料】

「耳目の感二つながら従したる」とは、その景色の評判と実態が一致して、素晴らしいという意味である。その感動のままに、昼の様子だけでなく、夜の様子まで記されている。これまでの海辺と少し違うのは、点線の部分だ。どうやら作者は、波打ち際を自分の足で歩き、「ぬれぬれ行」つたようだ。これまでは見るだけだった景色を、実際に肌を通して感じている。美しい景色の中に、自身の存在をも埋め込んでいるかのようでもある。その結果、旅の冒頭には見えなかった清々しさが、「濁る心も今ここに澄めり」という言葉からにじみ出ている。「語らばや」の詠歌も、自分が心動かされた景色を誰かに伝えたい、という思いに裏打ちされたもののように、ストイックな一人旅―「独身の遠行」の雰囲気^Eが、多少なりとも緩和^Eされているように感じられる。ちなみにこの少しあと、現在の千本松付近に至った作者は、海岸の様子を見つめながら「前途いよいよゆかし(『海道記』一四八)」と、純粹に旅を楽しむ心も垣間見せている。

(『東海道五十三次をよむ』毛利香奈子『海道記』『十六夜日記』の海辺―中世における東海道』による。)

(1) 【資料】の傍線部D その景色の評判と実態が一致して、素晴らしい とあるが、その景色の様子として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

21。

- ① 一方は空と海との見分けが難しく、一方は山と海岸が同じように険しい。
- ② 海辺の岩の下には波の花が咲き、岸辺には松の緑が鮮やかである。
- ③ 春には春の花が、秋には秋の花が咲くことで常に海辺が彩られている。
- ④ 空の雲は波打ち際に波が寄せる様子に似ていて、夜の月は海に船が浮かんでいるようである。
- ⑤ 海辺は岩が道のように連なり、朝には風が吹きぬけていく。

(2) 【資料】の傍線部E 緩和されているように感じられる。の理由として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

22

- ① 二重傍線部Xの和歌において、「語らばや」が「人に話したい」という意思を表しているから。
- ② 二重傍線部Xの和歌において、「今日みるばかり」が初めて見た景色への感動を表しているから。
- ③ 二重傍線部Xの和歌において、「清見潟」がその名の通り一人きりで清々しい気持ちを表しているから。
- ④ 二重傍線部Xの和歌において、「おぼえし」が「人に伝えたい」という自然な思いを表しているから。
- ⑤ 二重傍線部Xの和歌において、「袖にかかる涙」が「人恋しい」という感傷を表しているから。

問4 佐藤さんは、【文章】について調べる中で、『梅花無尽蔵』という詩文集に、旅の風景について書かれた詩を見つけた。次の【詩】を読んで、(1)、(2)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。

【詩】

F

東遊 雖^三屢踏^二危機^一 清見 関南 天下 稀

G

三保松原 隔^レ波暮^一 至今 枝有 六銖衣

(『梅花無尽蔵』による。)

(注1) 三保松原——古来、羽衣の伝説で有名な名勝の地。

(注2) 六銖衣——天人の着る、極めて軽い衣。銖は重さの最低の単位。

(1) 傍線部 F 東遊雖屢踏危機 の解釈として最も適当なものを、次の ①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 23。

- ① 関東へ遊びに行く時は、たびたび危険を顧みないこともあったが
- ② 関東への旅では、幾度も危ないことを経験したが
- ③ 関東への再三の遊山は、危険を承知の上だったが
- ④ 関東へ旅することで、時には危ない場所を見ることができたので
- ⑤ 関東へ何度も出かけたのは、危険な目にあうことを避けるためであったので

(2) 傍線部 G 至今枝有六銖衣 について、「今でも、その枝に極めて軽い天女の衣をかけたという、松が残っている」という解釈になるように返り点を付けたものとして最も適当なものを、次の ①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 24。

- ① 至今枝有六銖衣
- ② 至今枝有六銖衣
- ③ 至今枝有六銖衣
- ④ 至今枝有六銖衣
- ⑤ 至今枝有六銖衣

問5 【文章】、【詩】それぞれの説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 25。

- ① 【文章】で苦しみを経験するからこそ美しさが理解できると主張しているのと同様に、【詩】でも険しい道の手を経て出会ったからこそ景色の良さが理解できると詠んでいる。
- ② 【文章】で清見が関の美しさを詠んだ著名な歌人の和歌と自分の和歌を比較しているのと同様に、【詩】でも清見が関に伝わる伝説と実際に目に映る情景を比較している。
- ③ 【文章】では実際に現場を訪れた経験に基づいて清見が関の自然を情緒的に描写しているのに対して、【詩】では清見が関の自然を文献で得た知識に基づいて論理的に分析している。
- ④ 【文章】では景色の中に見えるさまざまなものを和歌を通じて主観的に評価しているのに対して、【詩】では主観的な感情を一切排して客観的に自然の美しさを評価している。
- ⑤ 【文章】では道中の景色だけでなく人々の生活にも作者が興味を抱いているのに対して、【詩】では眼前に広がる眺望への感動をこの地に伝わる伝説と重ね合わせて詠んでいる。

